

〈提供する資料〉

指導者用ガイド—自立イニシアチブに向けて

自立イニシアチブ

自立の教義と原則

自立は次のように定義されています。「自立とは、自分自身と家族の生活における霊的・物質的な必要を満たす能力であり、決意であり、努力である。会員が〔さらに〕自立するとき、さらによく人々に奉仕し、助けを与えることができる。」（『手引き 第2部』 6.1.1 参照）以下に挙げる、**3つの鍵となる教え**は、自立した生活を送る方法を理解するうえで助けとなります。

1 つ目に、自立は救いの計画において不可欠な戒めです。スペンサー・W・キンボール大管長はこう教えています。「教会とその会員は、自立し、独立するように主から命じられています（教義と聖約 78：13–14 参照）。それぞれの人の社会的、情緒的、霊的、肉体的、および経済的な幸福に対する責任は、第1にその人自身に、第2にその人の家族に、そして第3に、もしその人が忠実な教会員であるならば、教会にあります。」（『歴代大管長の教え—スペンサー・W・キンボール』116）

2 つ目に、神は御自分の義にかなった子供たちが自立するための道を備えることがおできになるということです。「万物はわたしのものであるから、わたしが意図しているのは、聖徒たちに必要なものを与えることである。」（教義と聖約 104：15）

3 つ目に、物質的な懸案事項を含め、神にとってはすべてが霊にかかわるものであるということです（教義と聖約 29：34 参照）。さらに完全に、福音に沿った生活をする決意するなら、物質的にも霊的にもさらに自立することができます。ディーター・F・ワークトドルフ管長はこう教えています。「神と隣人を愛するという二つの大切な戒めは、物質的なことと霊的なことが結合したものです。……硬貨の表と裏のように、物質的なことと霊的なことは切り離せません。」（「主の道にかないて助けをなす」『リアホナ』2011年11月号、53）

会員が自立に向けて学び、行動する方法

ビショップリックやワード評議会が祈りによって、チャレンジを抱えており、さらに自立することによって祝福を受けられると思われる人々について、まず検討することから始められます。理想的には、ワークショップ（開催されている場合）や自立グループに参加するよう各個人を招きます。そのほか、自分の時間や才能を使って人々を強められる人を招くことも検討します（教義と聖約 82：18–19 参照）。

会員は自立グループとして集まる

救い主は「一つのことについて二人または三人がわたしの名によって集まっている所には、見よ、わたしもその中にいる」（教義と聖約 6：32）と教えられました。自立グループは小規模の、実践的な訓練を行う評議会です。参加者一人一人のスキルや信仰を増し加えるために、皆が集まります。グループ集会では、様々な方法によって個人の啓示を受けられます。テキストのほかに、すべての参加者には、知識、経験、賜物など、人の学びと成長の助けとなるものが備わっています。

グループは通常、8–12人から成り、最長で12週間、毎週2時間程集まります

グループに参加すべき人

以下の状況にある会員にとっては、参加することが助けとなるでしょう。すなわち、断食献金から支援を受けている人、失業中または自分の技能に見合った仕事に就いていない人、帰還したばかりの宣教師、最近の改宗者、あまり活発でない会員、一人で子育てしている人などです